

2024年5月16日

西日本旅客鉄道株式会社

大阪駅西側地区アートプロジェクト（仮称）が始動！ 『ジョジョの奇妙な冒険』シリーズの 荒木飛呂彦氏がパブリックアートに初挑戦！

■ 大阪駅西側地区アートプロジェクト（仮称）が始動

複数のクリエイターがパブリックアートを制作する、「大阪駅西側地区アートプロジェクト（仮称）」を始動いたしました。大阪駅の西側エリアに多様なアート作品を展示し、大阪駅を訪れる多くの皆様に日常的なアート体験の場を提供することで、大阪の文化やビジネスの発展、イノベーションの創出につながることを目指します。

本プロジェクトには、大人気漫画『ジョジョの奇妙な冒険』シリーズの作者である荒木飛呂彦氏に参加いただき、かつて大阪駅のシンボルとなっていた「噴水小僧」をテーマに、ご自身初挑戦となるパブリックアートを制作いただきます。荒木飛呂彦氏の作品は、2024年7月31日に開業する新駅ビル「イノゲート大阪」にて設置されます。



アート制作中のワンシーン

■ 荒木飛呂彦氏プロフィール



荒木飛呂彦（あらきひろひこ）

宮城県仙台市生まれ。

1980年、集英社主催の第20回手塚賞にて「武装ポーカー」で準入選を受賞。1986年、「週刊少年ジャンプ」にて連載がスタートした

『ジョジョの奇妙な冒険』は、読者から絶大な支持を獲得。

2023年2月より「ウルトラジャンプ」にて、

シリーズ第9部となる『The JOJOLands』を連載中。

■ 漫画家・荒木飛呂彦氏のアート作品 / 概要

『ジョジョの奇妙な冒険』シリーズの荒木飛呂彦氏がパブリックアート制作に初挑戦！
かつて大阪駅で1世紀以上の時を過ごした「噴水小僧」が、時空を超えて現れる。

「大阪駅西側地区アートプロジェクト(仮称)」の一翼を担う荒木飛呂彦氏による本作品は、大阪駅の持つ歴史・伝統を象徴すべく、大阪駅2代目駅舎の時代から103年に亘り展示されていた、かつてのシンボル「噴水小僧」をテーマとしています。(現在は京都鉄道博物館にて保管。) この「噴水小僧」をテーマとした作品には、歴史を受け継ぎながら、その時代を生き抜く主人公達を描いた作品を世界に発信し続けている荒木飛呂彦氏こそ相応しいと考え、プロジェクトへの参加を依頼いたしました。

幅広い世代に愛される作品を生み出し続ける荒木飛呂彦氏による初挑戦のパブリックアートを通じて、「時空を超える悠久性」を感じ、大阪駅西側エリアの新たな創造の息吹に触れていただけることを期待しています。



■ 荒木飛呂彦氏 インタビュー

Q：今回のプロジェクトへ参加した理由を教えてください。

かつての大阪駅のシンボルで、今は京都鉄道博物館に保管されている噴水小僧が復活するというので、倉庫の奥にあったものがまた日の目を見るというのはロマンがあって良いんじゃないかと思い、お引き受けしました。

Q：「噴水小僧」のデザインに込めた想いを教えてください。

噴水って水じゃないですか。水って循環している。雨が降って、川に流れて、海に行って、蒸発して戻ってきて、という風にぐるぐる回っているものなので、そうした水の循環をデザインに取り入れようと思いました。

Q：今回のプロジェクトで大阪と荒木飛呂彦氏との間により一層強い縁が出来ましたが、もし大阪を舞台に物語を描くならどのような物語で、どんなキャラクターを登場させたいですか。

やっぱり食べ物じゃないですかね。「ジョジョの奇妙な冒険」にトニオ・トラサルディーというキャラクターがいますけど、ああいうスタンドとかキャラクターがいいですね。グルメ対決だったり、グルメの戦いで何かするっていうのはいいかもしれません。

■ 噴水小僧についての解説



噴水小僧は、頭上にハスの葉を掲げる高さ 1.2 メートルの銅像で、1901 年に大阪駅 2 代目駅舎が開業した際に 2 体設置されました。その後 1 体は行方不明となりましたが、残る 1 体は 1940 年の 3 代目駅舎完成とともに、大阪駅中央のコンコースに飾られて以降、多くの人々の待ち合わせ場所の目印として使われるようになり、「大阪駅のシンボル」として親しまれてきました。2004 年に 5 代目駅舎改修に伴って移転され、現在は京都鉄道博物館に保管されています。

提供：京都鉄道博物館

■ 大阪駅 これまでの歴史と変遷について

大阪駅は、1874 年 5 月 11 日に神戸駅から大阪駅までの鉄道が開業してから今年で 150 年の節目を迎え、現在では国内外から多くの人々にご利用いただいています。

2023 年 3 月には、大阪駅(うめきたエリア)が開業し、関西国際空港へのアクセスが更にスムーズになったことで、関西の「玄関口」としての役割を果たすべく進化し続けています。また、2031 年春開業に向けて難波エリアに接続するなにわ筋線の計画を進めており、さらに利便性が高まることが期待されています。

■ 荒木飛呂彦氏 パブリックアート設置場所/イノゲート大阪・概要

イノゲート大阪は「交流とひらめきがカタチになる場所」をコンセプトに、駅直上といった圧倒的な利便性、大阪駅(うめきたエリア)接続によるグローバル性、緑豊かな都市公園を望む抜群の眺望、人々が集まりやすいこの環境により、様々な交流が生まれ、ひらめきに発展し、それらがカタチになる場所、そして「新たな価値を生み出し続ける出発点」を目指しています。

開発が進む大阪西部地区の玄関口に位置し、周辺施設とは2階連絡通路で接続することで、歩行者回遊動線の起点となり非常に高い利便性を有することも特徴です。また、2023年3月18日に供用開始した大阪駅の新改札口(西口)と直結するほか、全7駅13路線の快適なマルチアクセスに対応しています。さらに、同日開業した特急「はるか」等が乗り入れる大阪駅(うめきたエリア)とも接続し、関西国際空港とのアクセスが便利です。2031年には「なにわ筋線」の開業により、大阪駅から関西国際空港までの所要時間が短縮され、国内だけでなく、海外へのアクセスも向上し、グローバルビジネスをサポートします。



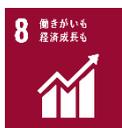
今回ご案内の取り組みは、SDGsの17のゴールのうち、特に7番、8番、9番、11番、12番、17番に貢献するものと考えています。



JR西日本グループは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



17 パートナーシップで
目標を達成しよう